

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりの生徒を大切にし、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、地域で活躍するリーダーを輩出する学校
1. 確かな学力と課題解決能力（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え実践を通じて深く学び、表現する力）を育む学校
2. 豊かな人間性（自分だけでなく他者の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自立して社会を支える力）を育成する学校
3. 羽曳野市唯一の高等学校として、地域連携（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼され、地域で活躍する）を推進する学校
4. 次世代リーダー（チャレンジ精神とリーダーシップ力をもち、主体的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成
- （1）新学習指導要領に基づいた生徒の「学ぶ力」を最大限に伸ばす教育課程の編成と授業の充実を図る。
- ア 主体的で対話的な深い学びの実現をめざす。
- イ 習熟度別授業、少人数授業、実習・体験型授業の効果的な運用を図る。
- ウ 生徒の主体的な「学び」へつながる授業研究と観点別評価を行い、授業の改善と充実を図る。
- エ 1人1台端末やICTを活用した授業内容の点検・改善を図る。
- ※授業アンケート（2回）の学校平均3.25（R3：3.28、R4：3.24、R5：3.23）をめざす。
- オ 教員が一人ひとりの生徒の「学び」を支援する時間を確保するための働き方改革を推進する。
- 2 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性をはぐくむ
- （1）規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。
- ア 家庭との連携のもと、遅刻指導など基本的生活習慣を確立する生徒指導に取り組む。
- イ 挨拶が飛び交う明るい校内環境の醸成に取り組む。
- ウ ルールやマナーを遵守し、モラルを高めるための「心の教育」の充実を図る。
- （2）生徒一人ひとりが安心で安全な学校づくりをめざす
- ア 教育相談体制を充実させるとともに、教職員と家庭が緊密な連携、情報共有を行う。
- イ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒を支援し、生徒との信頼関係を築いた教育活動を行う。
- （3）豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。
- ア 生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむとともに、人権が行き届いた安全で安心な学校の環境を醸成する。
- ※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合84%以上（R3：83.1%、R4：85.6%、R5：83.5%）、「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合75%以上（R3：61.4%、R4：63.2%、R5：73.6%）、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合85%以上（R3：70.8%、R4：80.1%、R5：86.7%）をめざす。
- 3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る
- （1）進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。
- ア 生徒の進路実現に向けた進路指導体制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として英語検定、パソコン検定等の外部検定に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
- イ 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。
- ※学校教育自己診断における「将来の生き方について考える機会がある」生徒の割合90%以上（R3：88.2%、R4：86.9%、R5：88.5%、）をめざす。
- 4 地域と連携した魅力のある学校づくり
- （1）地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。
- ア 広報活動を強化し、本校の魅力を広く周知するよう努める。
- イ PTAやNPO等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。
- ウ 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。
- エ 生徒や教員が地域に出向いて積極的な交流を図る。
- ※学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合82%以上（R3：83.6%、R4：80.8%、R5：81.2%）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・「授業は分かりやすく楽しい」（生徒）73.9%（昨年70.6%）、「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」（生徒）76.4%（昨年74.3%）、「放課後や早朝の補習あるいは講習に参加している」（生徒）39.8%（昨年31.1%）、「学習の評価は信頼できる」（保護者）84.6%（昨年80.5%）、「プロジェクトなどのICTを活用しわかりやすい授業をめざしている」（教員）82.8%（昨年81.8%）が増加した。生徒の学力保障と生徒個々の力を最大限に伸ばす指導方法の工夫と授業改善の取り組みをさらに進めたい。 【生徒指導等】 ・「学校生活に関する先生の指導は納得できる」（生徒）81.2%（昨年78.9%）、	第1回（6月26日） ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用しながら教育相談体制のより一層の充実を図る取り組みを進めてもらいたい ・外部検定は学校経営計画の中でキャリア教育の一環として位置付けられている。検定に向けた学習や合格することによる自己達成感や自己優位感を育むことが大切だと思う。検定に臨むモチベーションや合格率のアップをめざした授業や補講などの取り組みを進めてもらいたい。 ・懷風館高校は南河内を中心とした地域に根ざした学校であり、これからも地域との交流を大切にしながら生徒をはぐくみ、地域とともに歩んでいくことを大きな柱とした教育活動に取り組むことを期待している。

府立懷風館高等学校

「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い（生徒）80.4%（昨年79.0%）、「豊かな心や人の生き方、命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある」（生徒）87.1%（昨年85.5%）、「将来の進路や生き方について考える機会がある」（生徒）89.2%（昨年88.5%）が増加。特に、「学校は日常生活においてあいさつすることを働きかけている」（生徒）90.1%（昨年83.5%）、「生徒指導の方針（あいさつ、時間、身だしなみ等）には共感できる」（保護者）78.0%（昨年66.2%）は大幅に増加した。教育相談と生徒指導の取り組みについて一定の評価を得ることができた。今後も保護者と生徒の学校への信頼感を大切にしながら生徒支援を続けていきたい。 【学校運営】 ・「懐風館高校には他の学校にない特色がある」（生徒）73.4%（昨年64.3%）、「学校はいじめなど生徒の困っていることについて真剣に対応してくれる」（保護者）76.5%（昨年70.0%）、「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」（教員）82.8%（昨年80.0%）が増加。生徒や保護者が認識している学校の良さを外部に向けて積極的に発信するとともに、教員力のさらなる向上を図り、「チーム懐風館」として安全で安心な環境のもと生徒をはぐくむ学校づくりを推進する。	第2回（11月20日） ・市や地域と連携した取り組みは公立高校の強みの一つである。地域密着型の学校として今後も教員や生徒たちがどんどん地域に出て行き交流を図ることを期待する。 ・生徒の力を最大限に伸ばすために、今後もより多くの達成感や自己肯定感を得ることができる学びや体験の機会を提供していくことが大切である。 ・懐風館高校がこれまでに歩んできた道りと今現在の取り組みを見ると、地域密着型の学校であることがよくわかる。それが懐風館高校の特色であり強みである。その魅力を地域や中学生に積極的に発信し、アピールしていただきたい。 第3回（2月19日） ・学校公式SNSを開設し、これまでに100回を超える更新を行い広報の強化を図っていることは高く評価できる。 ・「学校は日常生活においてあいさつすることを働きかけている」（生徒）90.1%と昨年の83.5%より大幅にアップし、保護者の生徒指導に対する信頼度も高い。遅刻者数も減少しており、日頃から生徒に寄り添った生徒指導を実践している成果が出ている。 ・課題の多い生徒が増加している中、SCやSSWを活用するなど教育相談体制の充実がしっかりと図られている。今後も生徒支援のため支援体制のさらなる充実を進めてもらいたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	(1) 基礎的な学力の定着と主体的で対話的な深い学びをめざした授業改善の取組みを推進する。 (2) 働き方改革を推進する	(1) 教員の指導力の向上を図る。企画委員会、学ぶ力育成委員会が中心となり、アからウに組織的に取り組む ア 授業改善 - 年間2回の授業公開、全教科による研究授業の実施などにより、教員自らが積極的に授業改善に取り組む組織を構築する - 授業アンケートの実施とその分析及び課題解決に取り組む。 イ 校内教職員研修の充実 - ICT活用研修、進路指導研修、経験年数の少ない教員に対するOJTや経験の豊かな教員による研修の実施 ウ 専門コースの充実 - 外部機関と連携した体験学習やグループワークの工夫 - 専門コース科目「サービスラーニング基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善 (2) 教員が自らの心身の健康に留意し、生徒と向き合う時間を確保するため働き方改革を推進する。 ア 校務の効率化 - 授業のICT活用とともに、ICTを活用した校務の効率化を図る。 イ 部活動方針の遵守 - 部活動方針が遵守された活動が行われているか年2回の実態調査を実施し、教員の時間外在校時間削減に取り組む。	(1) ア・授業アンケートによる肯定的評価の向上 [2回平均 82.6%] - 学校教育自己診断「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」生徒の肯定率 92% [91.8%] - 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の肯定率 74%[73.4%] - 学校教育自己診断「授業でわからないことを先生に質問しやすい」生徒の肯定率 77% [76.2%] イ・校内研修の実施回数 8回[9回] - 学校教育自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」教員の肯定率 80% [80.0%] ウ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の肯定率 75% [74.3%] - 学校教育自己診断「自分が学びたいと思う系列・コースや選択授業がある」生徒の肯定率の向上 [80.3%] (2) ア・学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」教員の肯定率 88% [86.3%] - 学校教育自己診断「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」教員の割合 87%[86.6%] イ・年2回部活動実態調査を実施	(1) ア・授業アンケートによる肯定的評価 2回平均 83.6% (○) 「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」生徒の肯定率 87.3% (△) 「授業はわかりやすい」生徒の肯定率 69.8% (△) 「授業でわからないことを先生に質問しやすい」生徒の肯定率 77.5% (○) ◇わかりやすい授業に対する生徒の評価は低くはないものの目標値には至らなかった。今後は特に基礎的な学びを大切に生徒の満足度を高める授業力向上への取組みを進めたい。 イ・校内教職員研修は8回実施。(ICT関係5、人権教育2、コンプライアンス1) (○) 「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」教員の肯定率 82.8% (○) ◇教員のニーズに応じた満足度が高い研修を実施することができた。 ウ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の肯定率 76.4% (○) 「自分が学びたいと思う系列・コースや選択授業がある」生徒の肯定率 74.4% (△) ◇考察やプレゼンテーションを取り入れた授業形態が定着しつつある。系列・コースや授業の選択では、よりわかりやすい丁寧なガイダンスとアドバイスを行っていききたい。 (2) ア・「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」教員の肯定率 82.8% (△) 「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」教員の割合 89.6% (○) イ・部活動実態調査を9月と2月に実施。いずれも問題はなかった。(○) ◇ICTの活用以外にも業務の精選と効率化を進め、さらに働き方改革を推進していききたい。

府立懐風館高等学校

2 知・徳・体の調和のとれた教育をととし 豊かな人間性をはぐくむ	(1) 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かなところと規範意識を醸成させる	(1) 規範意識の醸成 ア・あいさつの励行 イ・個に応じた遅刻指導、身だしなみ指導 ・毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間（各1週間）を実施。 ・遅刻生徒については、放課後の指導など、生徒指導部を中心に、組織的に指導する。 (2) 教育相談体制の充実 ア・隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教員が情報を共有する。 イ・SCを活用するなど、教員の教育相談能力の向上を図る。 (3) あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。 ア・「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、外部人材を活用するなど「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。	(1) ア・学校教育自己診断「挨拶をする」生徒の肯定率 85%[83.5%] イ・学校教育自己診断「学校生活における先生の指導は納得できる」生徒の肯定率 80%[78.9%] (2) ア・学校教育自己診断「気軽に相談できる先生がいる」生徒の肯定率 74%[73.6%] イ・学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」生徒の肯定率 80% [79.6%] ・学校教育自己診断「学校はカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」教員の肯定率 80%[79.6%] (3) ア・学校教育自己診断「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の肯定率 86% [85.5%]	(1) ア・「挨拶をする」生徒の肯定率 90.1% (◎) イ・「学校生活における先生の指導は納得できる」生徒の肯定率 81.2% (○) ◇基本的生活習慣の確立と規範意識の向上をめざした生徒指導の取り組みの成果が表れている。 (2) ア・「気軽に相談できる先生がいる」生徒の肯定率 67.8% (△) イ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」生徒の肯定率 80.4% (○) ・「学校はカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」教員の肯定率 81.5% (○) ◇教育相談体制を強化し、事前予防的な生徒指導をめざした迅速なケース会議やSC、SSW を効果的に活用した個別の丁寧な生徒支援を行うことができた。 (3) ア・人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の肯定率 87.1% (○) ◇今後も人権が行き届いた安全で安心な学校づくりを進めていきたい。
3 「志」や「夢」をはぐくみ、 自己実現の達成を図る	(1) 自己（進路）実現に向けた進路指導の充実	(1) 生徒の進路意識の高揚や、自己（進路）実現の達成 ア・効果的な進路関係行事の実施 ・進路体験行事、懐風館セミナー〈大学等の出前講義〉等の実施 イ・補習や進学講習などの機会を充実させる ・教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める。	(1) ア・学校教育自己診断で「進路についての情報提供がされている」生徒の肯定率 84%[83.0%] イ・学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合の向上[31.1%]	(1) ア・「進路についての情報提供がされている」生徒の肯定率 85.5% (○) イ・「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合 39.8% (◎) ◇進路関係行事は毎年改編を加えながら実施している。今後も進路意識がより高まるようキャリア教育の取り組みを進めていきたい。
4 地域と連携した魅力のある学校づくり	(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信 (2) 地域と連携した取組みの推進	(1) 学校の様々な取組みを、中学生、保護者、中学校の教員に理解してもらう。 ア・中学校訪問や学校説明会、体験入学を充実させる。 イ・中・高の教員間の交流を推進する ウ・学校 HP を通じた情報の発信 (2) ア・地域と連携した外部講師の活用や福祉ボランティア等の生徒が地域に出る体験活動を推進する。	(1) ア・中学校訪問回数[25 回]や説明会等への参加者数[351 名]の増加 イ・教員研修や研究授業等を通じて中・高の教員間で交流を実施[3 回] ウ・校長ブログや部活動ブログ等を通じて日常的な学校の様子を発信 [52 回] (2) ア・外部講師を招いての授業や地域清掃等の地域と連携した体験活動を実施。 [8 回]	(1) ア・中学校訪問回数は昨年より 18 回増加 学校説明会の参加者数 376 名 (○) イ・教員研修や研究授業等で中学校の教員・校長延べ 15 人が来校し、情報交換と交流を 4 回実施。 (○) ウ・校長ブログは 65 回、部活動ブログ等は 12 回昨年の発信数より増加。今年度 6 月から始めた学校公式Instagram は 950 回発信。 (◎) (2) ア・地域清掃は 5 回実施。専門コースの授業で保育園、介護施設、支援学校との交流を実施。今年度から新たに地元小学校との交流を開始。 年間を通じて地域交流、体験活動を 11 回実施 (○) ◇運動部、文化部の地域交流活動のほか、大阪万博で販売する地元産の果物などを使ったお土産品を開発するプロジェクトに生徒が参加し、地域との連携を深めている。今後も地域密着型の学校として連携を推進していく。